

寒川文書館だより

Vol. 4



豚の血統書（小谷自治会所蔵）

■第4号目次

資料紹介	2
文書館を支えるボランティア	3
寒川の先人たち	3
収蔵庫の資料から	4
第4回企画展「100年前の発掘調査」	6
文書館 最近のできごと	7

第4号
2008.9.30
寒川文書館

資料紹介

表紙に掲げた資料は昭和15年（1940）に高座郡農会で発行された豚の血統書です。この血統書には、生産者名、豚の名前、父母・祖父母の名前、生年月日、特徴等の情報が示されています。父や祖父母の名前にはこの地域を物語る「ショウナン」の語が使われているなど、寒川の養豚の歴史を垣間見ることができる貴重な資料のひとつです。

現在の寒川において養豚を行っている農家はありませんが、かつては「高座豚」に代表される豚の飼育が盛んに行われていました。

寒川での養豚の歴史は古く、明治初期にまでさかのぼることができます。当時は神奈川の豚の元祖ともいふべき「谷頭豚」が飼育されていたといわれますが、大正年間には村内各地区に養豚組合が設置され、神奈川県奨励のもとに品種改良が進められました。

そして昭和7年2月には高座郡農会によってイギリスからヨークシャー種の種豚、ペンドレーバグルボーイ二世号が直輸入されます。その目的はおもに種豚の品種改良と販路開拓にありましたが、遺伝性や受精成績などにおいて、これ以前に輸入された種豚を上回る成果をあげました。さらに昭和10年に開催された「全国肉畜博覧会」では、名誉賞一等賞を獲得します。これにより「高座豚」の名が全国に広く知られるようになりました。老衰で死去する昭和15年4月18日までの8年間で、その種付頭数は600余頭に及び、その子孫も各品評会に出品されて高く評価されるなど、寒川の養豚の振興に大きく貢献しました。

戦後における寒川の養豚業は昭和30年代に最盛期を迎えますが、昭和45年の新都市法の施行にともない、農地の中には市街化区域へ編入されるところが増えたことによって、畜産公害の発生を恐れるようになった

ため、養豚農家は急激に減少していき、昭和60年にはとうとうその姿を消すこととなります。

このペンドレーバグルボーイ二世号の墓碑が、宮山の興全寺境内にあります。この碑はもともと、ペンドレーバグルボーイ二世号の飼育に携わった大蔵の柴田正質氏の宅地内に、昭和34年に建てられたものでしたが、昭和43年3月、興全寺境内に養豚農家、養鶏農家、酪農家が合同で「畜霊碑」を建てたのを機に、同寺へ移されました。

そして養豚が行われなくなった現在においてもなお、その発展の礎を築いたペンドレーバグルボーイ二世号の栄誉を讃えると共に、その霊を慰めるため畜霊祭が行われており、家畜たちに対する感謝の気持ちが捧げられています。

（林 宏美）



ペンドレーバグルボーイ二世号の墓

● 文書館を支えるボランティア ●

寒川文書館の基本理念のひとつに「みんなが足を運びたくなる文書館」というのがあります。普及イベントに力を入れるとともに、ボランティアの皆さんの力を借りて、町民と一緒に館運営にあたっていこうという考え方です。

開館前の平成18年9月、行政刊行物等の配架作業のメンバーを募ったところ、30人が応募してくださいました。開館後もさまざまなかたちで大勢の皆さんにお手伝いをいただいています。今後も広報等で呼びかけますので、ぜひご協力ください。

<展示作業>

第3回企画展「昭和40年代のまち探検」以来、展示パネルを切ったり、壁面に打ち付けたりする作業に参加していただいています。広報やインターネット等の呼びかけに応じてくださった方は、第5回まで、のべ69人に及んでいます。



第5回企画展のパネルを作成

<写真整理>

平成19年9月から、「広報さむかわ」の編集のため撮影された写真の整理を始めました。現在8名のみなさんが原則として毎週火曜日の午後に集まり、写真に番号をつけたり何が写っているかを書き込んだりといった作業をしています。



町広報番組の取材を受けるボランティアスタッフ

シリーズ 寒川の先人たち

第3回：福羽いちごの育ての親 — 甲賀春吉 —

かつて寒川でさかんだった福羽いちごの栽培に尽力した人です。明治25年(1892)、愛川村田代(愛川町)に誕生。赤羽根(茅ヶ崎市)にあった茅ヶ崎町外三ヶ町村立園芸試作場長だった昭和2年(1927)、小動の脇隆三郎に展示栽培していた福羽いちごの親株を譲ったのをきっかけに「湘南寒川温室苺組合」を結成して副会長に就任。のちには自らも岡田に農場を設けていちごの栽培を行いました。

甲賀の指導のもと、寒川のいちご栽培は生産者、生産量ともに飛躍的に増加し、県下最大の産地へと発展したことから「福羽いちごの育ての親」とたたえられました。いちごのほかにも温室での花卉栽培などの指導も行い、寒川の園芸作物生産の基礎を築きました。



甲賀春吉(1892~1964)

(渡辺真治)

収蔵庫の資料から (1)

文書館の収蔵庫には、皆様から寄贈していただいた貴重な記録資料や写真をはじめ、寒川の歴史を物語るさまざまな資料を保存しています。このコーナーでは、何回かに分けてその一端をご紹介します。いずれも閲覧できますので、ご希望の方は気軽にカウンターにお申し出ください。

木内哲夫家文書



田端の近世・近代文書201点。うち1点を除き寄贈をうけています。なかでも、宝永8年(1711)から明和元年(1764)までの、朝鮮通信使および琉球使節が東海道を通行した際の人馬動員関係史料17点が特徴的です。

二宮毅氏寄贈写真



寒川中学校関係の写真など262点。寒川中学校の初代校長を務めた二宮武男氏の収集したもので、昭和24年の航空写真、体育祭や日光修学旅行の写真、昭和30年代の卒業記念アルバムなどがあります。

寒川駅構内掲示板



昭和60年まで寒川駅の旧駅舎やホームで使用していた駅名表示板、駅長室や精算所の案内看板、運賃表など6点。寒川駅周辺整備事務所より移管されたものです。

旧公図



明治8年(1875)頃のものをはじめとする旧公図が97点あります。各大字の土地の一筆ごとの地目がわかる一番古い地図です。町内の土地が昔、どのように利用されていたかがわかります。

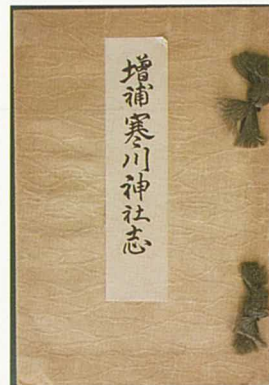
<第4回企画展>

「100年前の発掘調査 —記録資料にみる大神塚古墳—」

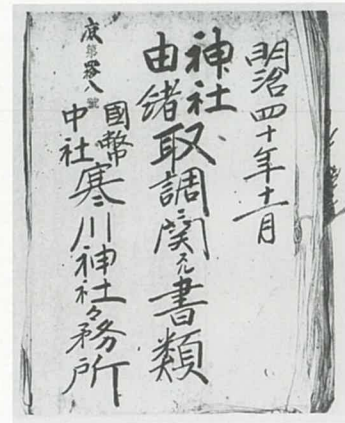
明治41年（1908）年に行われた大（応）神塚古墳の発掘は、寒川町域における最初の学術的な遺跡発掘調査でした。それからちょうど100年にあたるのを記念し、当時の記録や写真、新聞記事などにみえる大神塚古墳の様子や、その後の調査について展示しました。準備にあたってはパネルの作成や展示替えに16名のボランティアの皆さんにご協力いただきました。

菟 田茂丸と『寒川神社志』

発掘のきっかけは明治末年の寒川神社宮司菟田茂丸（うだいかしまろ）が主導した『寒川神社志』の編纂にありました。



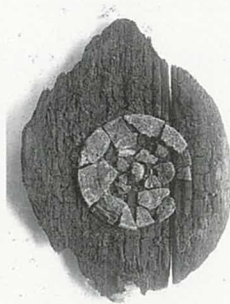
増補寒川神社志



神社由緒取調二関スル書類



坪井正五郎博士



出土した仿製鏡

明 治41年の発掘

坪井博士が主導した発掘では3面の鏡をはじめとする多数の貴重な遺物が得られました。

人々が見た大神塚古墳

正規の報告書のほか、郷土史研究団体の雑誌などでも大神塚古墳はとりあげられています。



広田富治氏「発掘記念碑」



花かげ(岡田・大神塚)

展 示ケース

町内宮山在住のアーティスト、田口雅巳氏が桜咲く春の大神塚古墳を描いた作品を展示しました。

【展示期間】平成20年3月2日(日)～8月31日(日) ※既に終了しています。

文書館 最近のできごと

■第1回資料保存活用講演会「市民が集う史料館」 3月8日(土)



資料保存活用講演会を初めて開催しました。第1回の講師は尼崎市立地域研究史料館長の辻川敦氏です。同館は昭和50年に開設されて以来、市民参加による市史の編集、資料の調査や整理などが行われているので、その実際を詳しくご説明いただきました。いずれも今後の寒川文書館の運営に参考になる事例ばかりでした。

詳しい内容は『寒川町史研究』第22号(平成21年3月刊行予定)に掲載する予定です。

■史跡ウォーク・岡田コース 3月15日(土)



文化財学習センター主催事業「史跡ウォーク」に講師として参加しました。今回歩いたのは岡田地区。12名の参加者と一緒に19か所の史跡を2時間かけて巡り、それぞれの地点で立ち止まって解説しました。古墳や道端の石造物、記念碑などさまざまなジャンルの史跡を案内しましたが、一番驚きの声があがっていたのは、現在はなくなってしまった寺や神社の跡地です。さほど広くない地域にこれだけの寺や神社があったこと、それが意外に身近なところにあったことがわかったからです。

■調査報告書「占領軍時代の寒川町警察」を刊行 3月31日(月)



『寒川町史調査報告書』16「占領軍時代の寒川町警察」を刊行しました。警察は現在、都道府県の管轄ですが、昭和23年から4年間だけ、寒川町が公安委員会や警察署を設置していた時期がありました。自治体警察と呼ばれるこの制度は、やがて町財政を圧迫し、住民投票で廃止になります。この報告書は、公文書や個人蔵文書の中から関連史料を初めて活字にしたものです。同時に『寒川町史研究』第21号も刊行しました。いずれも5月1日から各500円で販売しています。

■環境調査 5月14日(水)～6月13日(金)



特別休館期間を利用して、虫やカビから資料を守るため燻蒸作業を行いました。収蔵庫内にビニール天幕を張り、そこに資料と燻蒸剤を入れて4昼夜置くというものです。さらに環境調査を実施しました。これは、1か月の間、虫用のトラップを館内20か所以上に仕掛けて生息状況を調べたり、空中を浮遊する菌を確かめたりして、今後の環境対策を練る材料を得るためのものです。その結果、ほぼ良好な保存環境であることがわかりました。

■蔵書点検 5月16日(金)～5月18日(日)



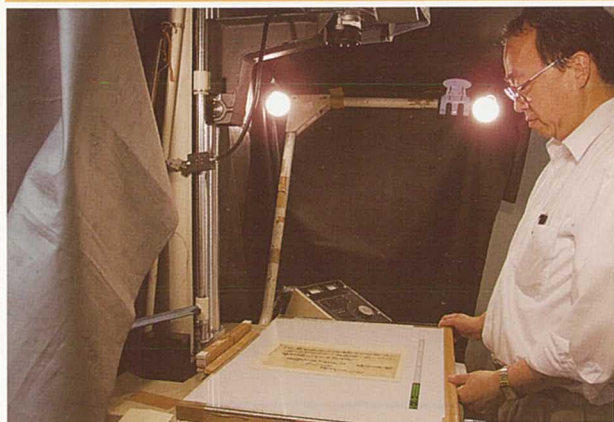
特別休館期間には蔵書点検も実施しました。図書館の蔵書検索システムを使って、およそ28,000冊の図書および行政刊行物が紛失していないかを確認するものです。資料に貼ってあるICタグを読み込んで、パソコンの蔵書データを照合する作業は、他の図書館のようなバーコード方式に比べて、大変スピーディーに蔵書を点検することができます。残りの時間で資料の並び替え作業などを行い、5月20日からの再開に備えました。

■古文書講座「江戸時代の史料を読む」 5月28日(土)～全6回



文書館事業となって2回目の古文書講座がスタートしました。昨年は6月～10月の全5回で実施しましたが、少し物足りないとの声もあったため、今年度は1回増やして5月から10月までの全6回ということになりました。年貢割付状、村明細帳、村絵図、五人組帳など、さまざまな史料をとおして、20名を超える受講者の皆さんに、江戸時代の村のようすを学んでいただいています。

■平塚市博物館所蔵文書の撮影 7月8日(火)



平塚市博物館で、一之宮村の江戸時代から明治初年にかけての古文書80点を所蔵していることがわかりました。これは郷土史家・高瀬慎吾氏のコレクションの一部で、この日、マイクロフィルムで撮影させていただきました。年貢、五人組帳、堤防の普請、地租改正関係など多岐にわたっており、これまで知られていなかった一之宮村の様子が判明する可能性があります。文書館で閲覧できますので、ぜひご利用ください。

■寒川高校インターン 7月25日(金)・26日(土)



昨年に引き続き、県立寒川高校のインターンシップの生徒3名が文書館の仕事を体験しました。写真資料の整理やカビ防止剤の入れ替え、航空写真パネルの運搬と設置、古文書講座の準備や受付など、さまざまな業務にチャレンジしてもらいました。2日間の終了後に感想を聞いたところ、講座のような住民相手のものから、力仕事に細かな仕事と、その幅広さに驚いたようすでした。

今後の事業予定

■開催中の展示のお知らせ

第5回企画展

「かながわの国体 1955・1998」

平成10年に「かながわ・ゆめ国体」が開催されて早くも10年が経ちました。寒川町では総合体育館で銃剣道競技が開催されました。この展示では、大会運営を支えた町民の皆さんの活躍ぶりを中心に紹介します。あわせて、昭和30年に開かれた神奈川国体の様子も紹介します。

会期 平成20年9月7日(日)～21年2月27日(金)

■平成20年度後半のイベント

○上映会「映像でみる懐かしの寒川」

11月3日(月) 午前10時・午後3時

○町史講座「相模路を歩いた高野聖たち－『檀廻日並』にみる弘法大師信仰－」

11月8日(土) 午後2時

○中世史講座「梶原景時の史料を読むⅡ」

11月22日(土)～2月28日(土) 全4回

○資料保存活用講演会(日時未定)

* 詳しくは、広報・ホームページをご覧ください。

編集後記

寒川文書館だより第4号をお届けします。

3ページでも紹介しましたが、文書館の運営にはボランティアさんの活躍が欠かせません。広報写真の整理は毎週火曜日午後には実施していますが、始まってちょうど1年が経ちました。上は60代から下は20代まで、幅広い年齢層の皆さんが、和気あいあいと取り組んでくださっています。文書館の仕事をしながら人と人との輪が広がる、これこそ「みんなが足を運びたいくなる文書館」のめざすところです。これからもこの輪を大切にしていきたいと思えます。

ホームページもご覧ください

ホームページでは文書館からのお知らせ、出版物のご案内のほか、さまざまなコンテンツをご提供しています。ぜひいちどアクセスしてみてください。

ホームページアドレスは下記のとおりです。

<http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

利用案内

■開館時間

火曜～金曜日 午前9時～午後7時
土・日・祝日 午前9時～午後5時

■休館日

月曜日(国民の祝日にあたる場合は開館)
年末年始(12月29日～1月3日)
特別整理日(決まり次第お知らせします)

■交通のご案内

JR相模線 寒川駅下車 徒歩10分
寒川町コミュニティバス 図書館文書館前下車 徒歩1分
※なるべく公共交通機関か自転車、徒歩でお越しください。



寒川文書館だより 第4号

平成20年9月30日

編集・発行／寒川文書館

〒253-0106 神奈川県高座郡寒川町宮山135-1

TEL 0467-75-3691 FAX 0467-75-3758

ホームページ <http://www.lib-arc.samukawa.kanagawa.jp>

電子メール bunshokan@town.samukawa.kanagawa.jp